授業科目名	日本語学概論Ｂ	大学名	作新学院大学
科目区分	ＶＵ連携講座	開講時期	後期（9 月 21 日～1 月 31 日）
学部・学科等	人間文化学部・人間文化学科	曜日	木曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	3 時限目　13：00～14：30
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	２単位	授業会場	学内講義室
担当教員名	池上　啓		
電話番号（代表者名）		e-mail アドレス	
オフィスアワー	作新学院大学の資料を参照。また、授業時に申し出てくれれば、別途時間を取って、質問や相談に応じる。		

授業の概要

＜授業の目標及びねらい＞

主として文法構造の側面から、日本語はどういう特徴を持った言語なのかということを考える。文法的な研究とは活用形を丸暗記することではなく、その言語の論理的構造を明らかにすることである。この講義では、順接表現や逆接表現など発想法に関係する部分にも触れながら、日本語・日本人の発想法の特徴を合わせて考えていく。

＜前提とする知識・経験＞

特別な前提知識は必要としない。

＜授業の具体的な進め方＞

「鯛のオカシラ付き」の「オカシラ」という複合語は「御＋頭」ではなく「尾＋頭」という構造である。ここまでは一般常識レベルだが、では、「頭も尾も付いた鯛丸ごと一匹」の意味を示すのになぜ「頭＋尾」ではなく「尾＋頭」という構造になったのだろうか。このような事例を参考として、日本語の単語の構造(語構成)について考える。

また、「渡辺刑事は血まみれになって逃げだした賊を追いかけた」という文章は二通りの意味に解釈できる(つまり誤解される危険がある)文章である。なぜこのようなことが起きるのか。このような具体的な事例を材料として、日本語の文法構造の特徴を考える。

＜授業計画＞

第 1 週　広義の「文法」とは。「新鮮な漬物」という表現は正しい表現か誤った表現か？
第 2 週　問題のある表現の分析(1)。「とてもうれしかったです」という文と語順の問題。
第 3 週　問題のある表現の分析(2)。「ラ抜きことば」の正体と文法システムの問題。
第 4 週　語構成(1)。「鯛のオカシラ付き」のオカシラは、「御頭」か「尾頭」か。
第 5 週　語構成(2)。現代日本人が「御頭」を連想しやすく、「尾頭」を連想しにくい理由。
第 6 週　語構成(3)。丁寧の接頭語「御」について。
第 7 週　日本語の文法的弱点(1)。「渡辺刑事は血まみれになって逃げだした賊を追いかけた」。
第 8 週　日本語の文法的弱点(2)。「ないものはない！」。
第 9 週　文法的な誤りとは何か。
第 10 週　格表示と人称表示(1)。「格」とは何か。膠着語と屈折語。
第 11 週　格表示と人称表示(2)。「は」と「が」、「に」と「へ」、「が」と「の」の違いは何か。
第 12 週　「日本語はどこから来たか？」　(1)
第 13 週　「日本語はどこから来たか？」　(2)
第 14 週　「日本語はどこから来たか？」　(3)
第 15 週　「日本語はどこから来たか？」　(4)
学期末試験

＜教科書・参考書・教材と入手方法＞

教科書は使用しない。参考書については、必要に応じて授業中に紹介する。

＜成績評価法＞

学期末試験（100%）の結果で評価する。2/3（期末試験を含めて 10 回）以上出席しないと評価の対象としない。（単位を取得できない。）

＜教員からのメッセージ＞

文法は暗記するものというイメージがありますが、広い意味での文法は分析しがいのある面白いものです。文法構造を分析することによって、その言語の特徴が見えてきます。